

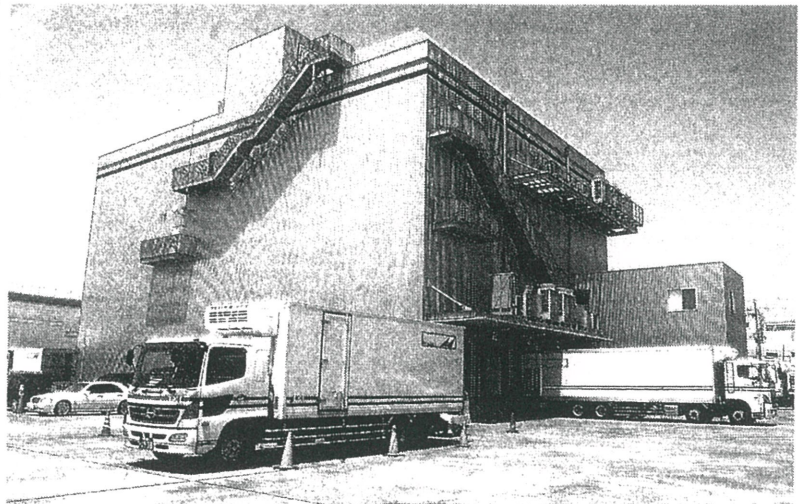
マンナ運輸

# 得意先ニーズ 柔軟対応

マンナ運輸（海野隆宏社長、京都府久御山町）は売り上げに対する自社便比率が85%と高く、得意先ニーズに柔軟に対応できる体制を整えている。グループ会社を含めた車両数は270台で、4ト車を中心に近畿から北陸向け食品輸送のネットワークを構築。きめ細かく、小回りの利くシステムを武器に、他社との差別化を図っている。

1962年に創業。トラック1台で製パンを配送することからスタートし、現在は乳製品などをメインに取り扱う。支店は京都（久御山町）、神戸（神戸市須磨区）、奈良（奈良県大和郡山市）に、それぞれ設置。営業所は大阪（大阪府八尾市）、小野（京都市山科区）、伊丹（兵庫県伊丹市）に構

## 北陸～九州カバー



17年7月に冷蔵・冷凍倉庫を増築し、保管能力は2倍以上に高まる

え、北陸から関東、中四国、九州の一部をカバーする。

2010年、京都第1センターが手狭になったため、近隣に京都第2センター（京都府久御山町）を稼働させた。17年7月には4階建てで、延べ床面積2640平方メートルの冷蔵・冷凍倉庫を増築。1階から3階は

冷蔵、4階が冷凍倉庫で、増築により保管能力は2倍以上に高まった。

ドライバーのレベルアップや安全意識高揚に向け、10年前からクレフィール湖東（滋賀県東近江市）の1泊2日研修を活用。毎年30〜40人のドライバーを受講させている。

また、6年前からは地元高校のインターンシップも受け入れており、物流の業務を知ってもらう機会を設けている。マンナ運輸では「3人に5日間のスケジュールで仕事を経験してもらっているが、社員の勉強にもなり、刺激になっている。3年前からは大学新卒の採用も始めた」としている。

海野社長（46）は「人いかに成長してもらえるかがテーマ。数年後には取引先のニーズに応えるため、中部エリアに拠点を置くことも考えている。運賃・料金については十数社と交渉し、断られたケースは無かったが、我々も精いっぱいコストダウンや合理化を提案した。これからはもっとかりした信頼関係を築きながら、顧客満足度が一層高まる物流サービスを提供していく」と話す。（落合涼二